

異業種交流のための企業

モノ作りのまちを守るため、今までにない新たなネットワークを模索する異業種交流のために
つくられた企業

大阪府東大阪市の株式会社ロダン21(従業員5名、資本金1,230万円)は、異業種の企業が交流を行う場を提供し、新商品の開発への取組を支援する企業である。

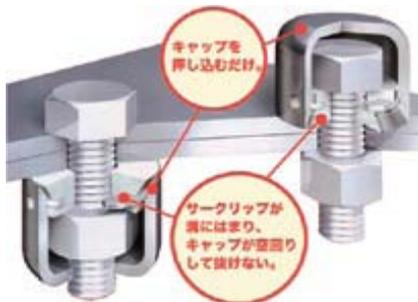
ゴムパッキンの製造を行う株式会社シナガワの品川隆幸社長が、1997年に東大阪市が行った異業種の融合化を促進する事業の公募に、応募したことがきっかけとなって、有志13社が結集し、1999年に設立し、2001年に株式会社化した。

「1970年頃、当時は地価も安かった。地方から出てきて起業する『同類』も多いし、仲間も作れるだろう」と、東大阪市を選び株式会社シナガワを創業した品川社長であったが、集積を支える小規模な企業の廃業の増加や企業同士のつながりが薄れていくことに危機感を覚え、「自らが企業のネットワーク化を行っていかねばいけない。」と考えた。

東大阪市にも周囲の企業のコーディネイト役を担う企業は存在するが、自社の利益に合うことが前提であり、「異業種の企業をコーディネイトし、新しいモノを創っていこう。」という理念の企業はこれまで存在しなかった。

現在までに、食用のり会社からの依頼で、回転ずしの軍艦巻きに使用するのりの裁断と包装を行う業務用機械や盗難やいたずら防止のための固定ボルト用のキャップ等のヒット商品を開発している。

こうした成功により、設立時は10数社に過ぎなかった会員企業が現在は300社を超え、大阪府外の企業も名を連ねるまでになった。



盗難やいたずら防止のための
固定ボルト用のキャップ